



愛知県議会議員

— 自民党2期 —

神谷和利

1285

日本の農業はかつてない大転換期を迎えています。基幹的農業従事者、仕事として主に自営農業に従事している人が年々減少し、2000年の240万人が現在111万人まで落ち込んでいます。

昭和 36 年 1 月 2 日生まれ。豊田市柿本町 3-34。愛知県議会経済労働委員会委員。名古屋港管理組合議会企画総務委員会副委員長。自民党愛知県第 11 選挙区支部長代理。元豊田市議會議長。愛知県森林協会副会长。豊田市少林寺拳法協会会长。ボーリスカウト豊田地区副協議会長。

重要ですが、現状は新規就農者の6割が非農家出身者です。

非農家出身者への就農支援を

その7割が65歳以上の
があります。

高齢者で、農水省では
2050年に36万人ま
で減少すると推計して
います。今後さらに少
ない扱い手でより多く
の農地を活用して食料
安全保障の基盤である
農地の維持を図る必要

農業における人材の世代交代は待ったなしの課題で、今後数年の対応の遅れが地域農業の衰退に直結するところの危機感を持たねばなりません。農家の子弟による継承はもちろん

口から築き上げる必要
があります。資金調達
の目途を立て、地域か
らの信頼を勝ち取り、
農地を確保することに
非常にハードルが高く、
誰でも容易に参入でき
る産業ではありません
しかし非農家出身の

るのです。いのことは農業が「地域の後継者問題」に留まらず「地域外から人材を受け入れる産業」に転換する可能性を示唆しています。前述の農家が必要な三本柱に捕らわれず、雇用・研修・生活支援までスムーズに就農できる仕組みづくり、とりわけ「就農の受け皿」

そのためには農家の個人経営から組織的な法人経営化を促進する施策と共に、高齢農家が農地や農業設備・機械を円滑に引継げるよう、農家の「終活支援」の施策が必要です。